

よこそうをよりよく知るためのフリーマガジン

プロムナード

毎月1日発行

2026年

2月号

Vol.394

『新看護部長就任のご挨拶』

看護部長
野口 和子

特集

『高齢者の外傷について』

理事長 平元 周

よこそうニュース

『元横綱日馬富士さん横浜総合病院を親善訪問』他

TAKE FREE

連載

Dr.長田の認知症学事始
谷川博士のお薬よもやま話

よこそう医療福祉情報局

新看護部長就任のご挨拶

この度ご縁をいただき、田口春美看護部長の後任となりました、野口和子と申します。

これまでいくつかの病院等で、看護管理や看護師等の継続教育の役割を経験してまいりました。

横浜市内での病院勤務の経験はありませんが、横浜といえば、西区は父の出生地、たまプラーザは夫が大学生時代を過ごした地、金沢区は私の大好きな小田和正さんの出身地、あざみ野は『ライオンキング』等で有名な劇団四季の稽古場があり、着任して知ったのは、桐蔭学園が第105回全国高校ラグビー大会で三連覇という偉業を成し遂げたことです。

このような地にある横浜総合病院は、地域中核病院として住民の皆さまの身近で、必要な医療の提



供を果たしておりますが、さらに必要とされる病院を目指し、平元理事長および岩淵病院長をはじめとする幹部、全職員とともに取り組んでまいりたいと思っております。

また、看護部においては、病院理念「心技一如」のもと、専門職連携をさらに推進させ、看護部理念「寄り添う看護」を、患者さま・ご家族、地域の皆さまに、看護師としての責務と人間味をもって真摯に実践してまいります。

看護職員の皆さまとは対話を大切に、前看護部長が大切にされた「チームだからできること」を浸透させていきたいと考えております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

看護部長 野口 和子



◀看護部ページはこちらから



特集

始めよう
フレイル
予防

高齢者の 外傷 について

超高齢社会

(理事長 平元 周)

2025年の日本の65歳以上の高齢者人口は3,619万人で総人口に占める割合は約3割となっております。さらに75歳以上の後期高齢者は2,124万人(総人口の17.2%)と増加しており、医療・介護が必要な75歳以上(後期高齢者)の層は増加傾向にあります。日本は超高齢社会の新たな局面に入っています。

ちなみに、100歳以上の超高齢者は約10万人で女性が88%を占めています。

年齢3区分別人口及び割合(2025年)－9月15日現在

区 分	総人口	15歳未満	15～64歳	65歳以上	うち 70歳以上	うち 75歳以上	うち 80歳以上	うち 85歳以上	うち 90歳以上	うち 95歳以上	うち 100歳以上
2025年											
人 口 (万人)											
男女計	12320	1349	7352	3619	2901	2124	1289	690	290	76	9
男	5995	691	3736	1568	1219	851	473	225	78	15	1
女	6326	658	3616	2051	1683	1273	816	466	213	61	8
総人口に占める割合(%)											
男女計	100.0	10.9	59.7	29.4	23.5	17.2	10.5	5.6	2.4	0.6	0.1
男	100.0	11.5	62.3	26.2	20.3	14.2	7.9	3.7	1.3	0.3	0.0
女	100.0	10.4	57.2	32.4	26.6	20.1	12.9	7.4	3.4	1.0	0.1
人口性比※	94.8	105.0	103.3	76.5	72.4	66.8	58.0	48.3	36.5	25.1	14.6

資料:「人口推計」

※)女性100人に対する男性の数

注1)2025年は概算値から推計した値、2024年は確定値から推計した値である。

注2)表中の数値は、単位未満を四捨五入しているため、合計の数値と内訳の計が一致しない場合がある。

出典:総務省HP「統計トピックスNo.146 統計からみた我が国の高齢者」より抜粋 (https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01toukei02_01000020.html)

当院の診療圏である横浜市青葉区、川崎市麻生区は平均寿命が全国のトップレベルであり、当院の診療圏は高齢者が多い地域といえます。

今回は後期高齢者医療関連テーマの中から「高齢者の外傷」について取り上げました。

フレイル

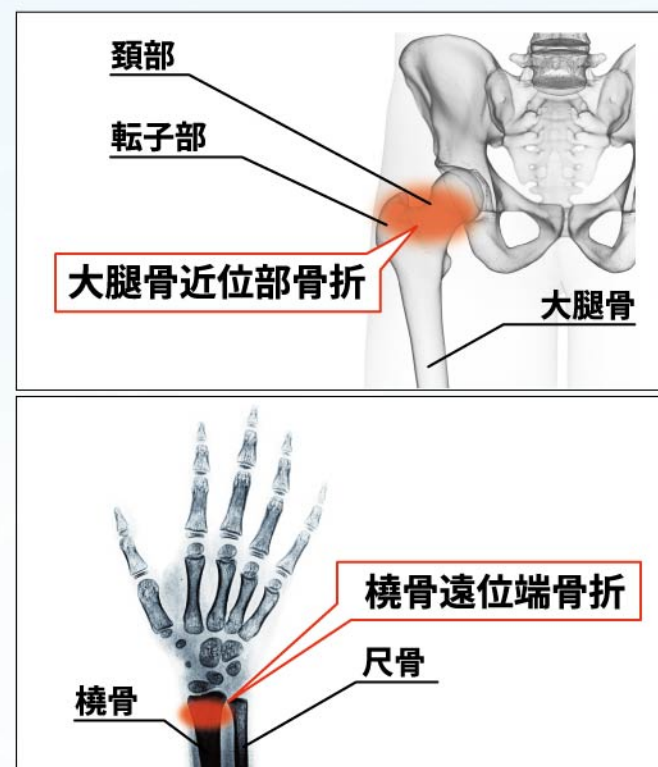
高齢者の外傷は加齢による身体機能の低下(骨密度の低下、脳萎縮、バランス感覚の悪化など、いわゆるフレイルと呼ばれる状態)が原因で転倒・転落による骨折(大腿骨、骨盤など)や頭部外傷(慢性硬膜下血腫など)が非常に多く、寝たきりや要介護状態、さらには死亡につながる深刻な問題です。特に頭部外傷では受傷後数週間から数か月経ってから症状(頭痛、ふらつき、認知症状、不全麻痺など)が出る慢性硬膜下血腫に注意が必要で、転倒後の再検査や家族による体調観察が重要です。



骨折に関しては筋力や骨が弱くなってフレイルの状態になっている高齢者の場合、転倒・転落が大きくなりがちです。

特に高齢者に多い以下の骨折について説明します。

高齢者に多い骨折



1) 大腿骨近位部骨折

70歳から90歳の高齢者に多く、骨がもろくなることで、転倒やベッドからの転落で発生します。太ももの付け根の痛みが特徴で歩行が困難になります。治療は手術治療が必要で、折れた部分を金属で固定する観血的整復固定術や骨頭を人工物に置き換える人口骨頭挿入術が行われます。当院にも毎日のように大腿骨骨折の患者さんの救急入院があり、手術と術後早期よりのリハビリが行われています。

2) 橈骨遠位端骨折

これは60から70代の女性に多く、転倒時に手について発生します。手首の骨の骨折です。骨折のずれが少ない場合はギブス治療も可能ですが、早期のリハビリのため手術治療が選択されることも多いです。

以上が高齢者に特に多い整形外科領域の骨折の説明になりますが、予防には住宅環境の整備(段差の解消、手すりの設置、滑りにくい床材への変更、夜間でも足元が見えやすいように常夜灯設置など)、適度な運動を心掛け、筋力やバランス能力の低下を防ぐ身体機能の維持は重要ですが、医療としてできることは骨粗鬆症の検査を受けて、自分の骨がどれくらいもろくなっているのかを知っておくことが重要で、早期の治療が重要です。最近、テレビでも骨密度に関することが盛んに宣伝されていますが、まさにその通りで、当院では骨粗鬆症の専門的治療を行っていますので、骨密度の検査を希望される方は、各科外来受診時に担当医にご相談ください。



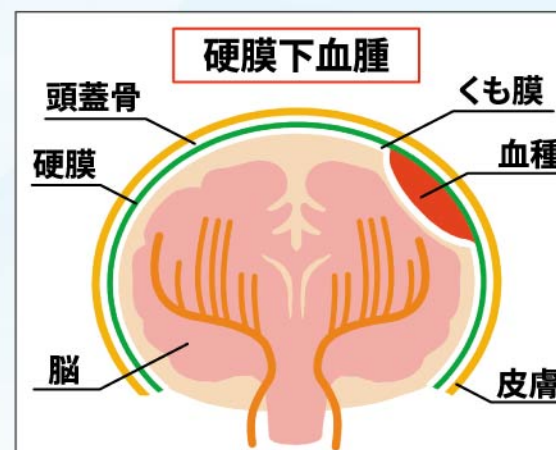
頭部外傷

さて、次は、私の専門領域である高齢者の頭部外傷についてお話します。

昔から頭を打った場合は時間が経ってから症状が出るので怖いということが語り継がれてきましたが、まさにその通りで特に頭や顔をぶつけた直後は元気で数週間から2-3か月後に症状が出てくる慢性硬膜下血腫には注意が必要です。

まずは軽微な外傷でもすぐに病院を受診し、頭部CTを撮って脳の状態を確認することが重要です。慢性硬膜下血腫は脳を覆っている硬膜と脳の間に血液がたまる病態です。原因ははっきりしませんが、軽微なものも含めた顔面や頭部の打撲が原因で発症するといわれており、外傷歴がはっきりしない人も20%います。高齢者は脳が萎縮傾向にあり、血液がたまりやすい状態にあり、また脳梗塞や心筋梗塞などの治療のために抗血小板剤や抗凝固剤などの薬を服用している場合があり、出血が起こりやすい要因の一つです。血腫は風船のように周囲に膜を作って増大していきます。血腫が増えると様々な症状が出現します。高齢者では頭痛、麻痺などに加え、認知症状、精神症状、失禁や歩行障害が多くみられ、認知症と誤解され、物忘れ外来を受診して慢性硬膜下血腫と診断されるケースも散見します。診断は頭部CTやMRIで脳の断面を見ればすぐ診断できますし、治療は局所麻酔で頭皮に小切開を加え、頭蓋骨に径1cm程の穴をあけて、そこから血腫を吸引し洗浄して1時間弱の手術になります。治療が早ければ8割の人が1回の手術で、元の生活に戻ることができます。このように慢性硬膜下血腫は早期診断ができれば回復も早く、完治できる病気です。

以上が、高齢者に多い、頭部外傷後の慢性硬膜下血腫の説明になります。



慢性硬膜下血腫と骨粗鬆症

今回、覚えておいていただきたい点は次の2点です。

1) 慢性硬膜下血腫

慢性硬膜下血腫は軽微な頭部顔面外傷でも発症することがありますので、頭を打った場合には、特に異常がなくても、脳神経外科を受診して、頭部CT、MRIなどでその時の脳の状態を確認しておくことが重要です。

最後になりますが、2月7日に当院主催による「フレイル予防で長寿社会をイキイキと！」という市民公開講座が開催されます。(プロムナード今月号ニュース、および病院ホームページでも詳細掲載)高齢者のフレイル予防について、有意義な講演が予定されていますので、多数のご参加をお待ちしております。

2) 骨粗鬆症

骨粗鬆症は自覚症状のないままに進行し、骨折の大きな要因です。高齢者の骨折の予防の意味でも骨密度のチェックを受けて、現在の状態を知っておくことをお勧めします。

市民公開講座の申し込みはこちらから▼

「フレイル予防で
長寿社会をイキイキと！」

※定員に達し次第、受付終了となります。お早めにお申し込みください。



平元 周 / Makoto Hiramoto

理事長・名誉院長

- ・ 弘前大学(1979年卒)
- ・ 聖路加国際病院
- ・ 弘前大学脳神経疾患研究施設
- ・ 北品川病院
- ・ 東邦大学客員講師
- ・ 日本脳神経外科学会専門医
- ・ 日本救急医学会救急科専門医





Dr. 長田の 認知症学事始

にんちしょうがくことはじめ

「家に帰ります」

認知症高齢者は、デイサービスを利用中に「これから家に帰ります」と主張して出掛ける支度をしたり、自宅に居るにも拘らず、身の回りの荷物をまとめて「それでは家に帰ります」と主張することがあります。「家に帰りたい」という願望や、家に帰るという考えに固執することは、認知症のどの段階でも出現する可能性があり、こうした行動は「帰宅願望」と呼ばれます。帰宅願望の背景には、現在の居場所や時間がよく分からなくなる失見当識や、最近の出来事を忘れる記憶障害による全般的な混乱に加えて、自分が人生のもっと若い時期を生きていると思ひ込むことが影響していると考えられています。

レミニッセンス・バンプ

認知症の人が家族を紹介するときに、息子を「弟」、あるいは娘を「妹」と勘違いすることは珍しくありません。こうした症状も、自分が人生のもっと若い時期を生きていると思ひ込むことが原因と考えられます。高齢者が過去の記憶を思い出す際に、10歳代から30歳代頃までの出来事をとりわけ思い出しやすい傾向にあり、レミニッセンス・バンプ(回想のコブ)と言われます。この時期は、進学、就職・昇進、結婚・子育てなど人生で最も大きな変化があ

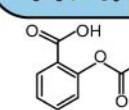
ったために記憶に深く刻まれるのではないかと考えられています。「家に帰ります」と主張する高齢者にその理由を尋ねると、「明日は子供の運動会なので、早く帰ってお弁当を作らなければなりません」とか、「明日は会社に出勤するので、これで失礼致します」などと、^{あたら}も若い頃に逆戻りしたような返答をすることがあり、これはレミニッセンス・バンプを反映した症状と解釈することもできます。

「家」は現在住んでいる家に非ず



認知症の人にとって「家」という言葉は、現在住んでいる場所以上のものを表していることがあります。多くの場合、認知症の人が「家に帰りたい」と主張するときには、それは現実的な自宅という意味ではなく、「家」という感覚を指しています。「家」は、快適で安全な場所という漠然としたイメージ、安定して幸せだった時間や場所、自分が活躍した場面などの記憶を表している可能性があります。

従って、高齢者が「家に帰ります」と主張するときには、現在既に「家」に居るかどうかの議論は出来れば避けて、話題の焦点を食べ物などに逸らせることで、他の行動に移すことが可能になります。あるいは「それではご一緒に」と言って一緒に屋外を散歩するうちに帰宅願望が薄れると考えられています。

次号連載第四十二回
に続きます

お薬 よもやま話

かまくら
鎌倉時代とお薬(1)

はじめに

鎌倉時代(1185~1333年)は、日本の歴史の中で大きな転換点となった時代です。それまで政治の中心にあった貴族に代わり、武士が社会の主役となりました。戦が日常化し、人々の暮らしや価値観が大きく変わるなかで、病やけがに対する考え方、そして「お薬」の役割も変化していきました。

今回は、鎌倉時代のお薬について、① 平安時代から受け継がれた医療とお薬 ② 武士の時代が生んだ実用的なお薬 という流れで、史料に基づきながらわかりやすく紹介します。

① 平安時代から受け
継がれた医療とお薬

源氏山公園「源頼朝像」(神奈川県鎌倉市扇ガ谷)

鎌倉時代の医療は、突然生まれたものではありません。その土台には、奈良・平安時代に形成された宮廷医学がありました。

平安時代には、朝廷の医療機関として「典薬寮」が設けられ、医師や薬師が制度的に管理されていました。治療や処方是中国医学(漢方)に基づき、十世紀に丹波康頼が編纂した『医心方』は、その集大成といえる医学書です※1。

鎌倉幕府が成立してからも、医学知識の中心は依然として京都にありました。そのため、幕府は京都から医師を招いたり、貴族社会で培われた医療術をそのまま利用したりしていました。歴史書『吾妻鏡』には、将軍や有力武士が病に倒れ、医

師の治療や薬を受けた記録が残っています※2。これから、鎌倉時代初期のお薬は、平安医学の延長線上にあったことがわかります。



現存最古の『吾妻鏡』(全52巻:紅葉山文庫)国立公文書館所蔵

② 武士の時代が生んだ
実用的なお薬

しかし、鎌倉時代には平安時代とは異なる医療需要が生まれました。それは、戦に直結した医療です。

武士は合戦で刀傷や矢傷を負いました。そのため、鎌倉時代のお薬では、

- ・ 血を止める
- ・ 傷の悪化を防ぐ
- ・ 痛みを和らげる

といった外傷治療が特に重要でした。

よもぎ(止血・消炎)、うこん(炎症を抑える)、木の皮や樹脂など、比較的手に入りやすい薬草が多く使われました。

これらの利用の一部は史料で確認できますが、「万能薬として使われた」などの話は後世の民間伝承である場合もあり、史実とは区別して考える必要があります。

幕府は薬草の確保にも関与しました。『吾妻鏡』には、伊豆・相模・甲斐などに、薬草の献上を命じた記事があります※2。これは、関東が政治の中心となったことで、薬の供給体制も東国へ広がったことを示しています。

参考文献

※1. 丹波康頼『医心方』岩波書店

※2. 『吾妻鏡』岩波文庫・校注本

次号も博士のよもやまが続きます



要介護（要支援）認定の申請

◆申請資格

- ※65 歳以上の方
65 歳になると介護保険の被保険者となります。
- ※40 歳以上 65 歳未満の方
特定の病気により介護が必要な場合、申請をすることができます。

※16 種類の特定疾病

- ①がん（末期のがん）②関節リウマチ③筋萎縮性側索硬化症（ALS）④後縦靭帯骨化症
- ⑤骨折を伴う骨粗鬆症⑥初老期における認知症
- ⑦進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病⑧脊髄小脳変性症
- ⑨脊髄管狭窄症⑩早老症⑪多系統萎縮症⑫糖尿病性神経障害、糖尿病性腎症及び糖尿病性網膜症⑬脳血管疾患⑭閉塞性動脈硬化症⑮慢性閉塞性肺疾患
- ⑯両側の膝関節又は股関節に著しい変形を伴う変形性関節症

◆申請先

お住いの自治体の窓口や地域包括支援センターに申請が必要です。

◆申請に必要なもの

介護保険証（40 歳以上 65 歳未満の方は加入している医療保険の分かるもの）、かかりつけ医の分かる情報（診察券等）など。

◆要介護認定とは

介護サービスの必要度（どれくらい介護サービスを行う必要があるか）を、保険者である市町村に設置される介護認定審査会で判定されます。

主な介護保険サービス

◆居宅サービス

要介護・要支援者が現在の居宅に住んだまま提供を受けられる介護サービスです。例えば、訪問介護や通所介護があります。

※訪問介護（ホームヘルプ）

ホームヘルパーが利用者の自宅を訪問し、食事・排泄・入浴などの介護や、掃除・買い物・調理などの生活の支援をします。

※通所介護（デイサービス）

利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、また、利用者の社会的孤立感の解消や心身機能の維持、家族の介護負担の軽減などを目的として実施します。

◆施設サービス

「特別養護老人ホーム」「介護老人保健施設」等に入所した要介護状態にある高齢者に対して提供されるサービスです。

◆地域密着型サービス

高齢者が身近な地域で生活し続けられるように、市町村の要介護者・要支援者に提供されるサービスです。



介護サービスを利用するときは介護支援専門員（ケアマネジャー）と相談し、限度額の範囲内でケアプランを作成してもらいましょう。

参考：厚生労働省 HP（介護事業所・生活関連情報検索）・神奈川県 HP（介護保険・介護サービス）

横浜総合病院の相談窓口は地域医療総合支援センターです。
お気軽にお声がけください。☎ 045-903-7152（患者相談室）

Episode.14

介護保険の申請をしてみない？



Text & Illustration by
Masami Honna
(Medical Social Worker)

新看護部長就任のお知らせ



このたび、1月1日付で新看護部長が就任いたしました。前任の田口春美看護部長は長年にわたり現場に寄り添いながら看護部を牽引し、当院の発展に大きく寄与されました。野口和子新看護部長はその志を引き継ぎ、患者さんに信頼される看護の実践と働きやすい職場づくりに努めてまいります。引き続き、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

第2回市民公開講座のご案内



「フレイル予防で長寿社会をイキイキと！」

2月7日土曜日 14:30～16:00

プログラム

- フレイル予防：健康長寿の秘訣ここにあり
医師 長田 乾
- フレイルと栄養の話：食べて元気なからだづくり
管理栄養士 平野 麻紀子
- フレイル予防の運動
理学療法士 阿部 翔悟

参加
無料

会場

たまプラーザテラス内プラーザホール

お申し込み

WEB からの申し込みとなります。右記の QR コードよりお申し込みください。



お問い合わせ

横浜市青葉区美しが丘 1-1-2
たまプラーザテラス ゲートプラザ 2 階

横浜総合病院 総務課 電話：045-902-0001(代)
詳細は病院ホームページにてご確認ください。
<https://yokoso.or.jp/community-seminar>

主催：横浜総合病院、後援：たまプラーザ商店会



病院循環バスをご利用の皆様へのお願い

安全で気持ちよくご利用いただくため、以下のご協力をお願いいたします。

- 感染症予防のため、車内では**マスクの着用**をお願いしております。
- 周りの方が安心して過ごせるよう**迷惑となる行為**はお控えください。

迷惑行為一覧

大声で話す、大きな声を出す	許可のない撮影
運転手への声かけ	飲食行為
他人への暴力や威圧的な行為	不潔な臭い・香水・タバコ臭等
他人の身体に触れる	(スメルハラスメント)



※そのほか、同乗者の方が不快に感じる行為は迷惑行為として対応させていただく場合がございます。

- 道路交通法第44条により、路線バス停留所前後10mの駐停車はできません。**
循環バスをご利用の際は停留所から10m以上離れた場所で手を挙げて乗車の意思をお知らせください。

ご協力いただけない場合、**乗車をお断りする場合**がございます。
皆様が安心して利用できるバス運行のため、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

サンタがやってきた



昨年末のクリスマス、院内保育室に職員が扮したサンタクロースと雪だるまがサプライズで登場しました。突然の訪問に、子どもたちは目を輝かせて大喜び。プレゼントを受け取り、笑顔と笑い声に包まれた、心温まるひとときとなりました。



元横綱日馬富士さん横浜総合病院を親善訪問

第70代の横綱を務めた日馬富士（本名：ダワーニャム・ビャンバドルジ）さんは、相撲界引退後、実業家として幅広く活動されており、その事業収益は、ご自身が理事長を務める日馬富士学園の建築費、運営費や非営利活動法人への支援活動に充てておられます。私が前職でモンゴル国立医科大学附属病院建設準備や日蒙医療交流に携わらせていただき、また新病院移転の際には、古くなった車椅子などを日馬富士さんに寄贈した等の縁で、昨年12月に日馬富士さんが横浜総合病院においでくださいました。2018年に新たに開校した新モンゴル日馬富士学園は、教育理念に「国際社会で活躍できる人材の育成」を掲げ、現在2000人を超える生徒が在籍しています。学園では



日本の文化や教育への感謝を原点とし、道徳・礼儀・情操教育を重視し、「全身全霊」で何事にも取り組む姿勢、「強い体と心」を育み、国際社会に貢献できる将来モンゴル国を背負っていく人材育成に取り組んでおり、教育の基本は相撲道から学んだ「躰」ですと仰っていました。現在の日本の教育現場ではハラスメントと言われるかもしれませんが、日馬富士さんが私達以上に日本人らしく見えました。（病院長 岩淵 聡）

寄付のお願い

当院では今後も地域の皆様に安全で安心な医療を提供していくため、寄附金を受け付けております。皆様の格別のご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。皆様からいただいた寄附金は診療機能の向上のための医療機器等の購入、療養環境の整備等に活用させていただきます。



ご質問・ご不明な点がございましたらメールまたはお電話にて下記までお問合せください。

医療法人社団 緑成会
横浜総合病院
総務課

☎ 045-902-0001 (代)

メール
yokoso-info@yokoso.or.jp

編集後記

長年にわたり当院の看護を牽引してこられた田口看護部長がご退職を迎えられました。日々の現場に真摯に向き合い、看護の質と人を育てることに尽力されてきた歩みは、当院の大きな礎となっています。その想いを受け継ぎ、新たに就任された野口新看護部長のもと、当院の看護は次の一步を踏み出します。これまでのご尽力に心より感謝するとともに、新体制のもとでさらなる発展が続くことを期待しております。(TOMO KAWAI)

新年になり、新看護部長が就任し、新年度が迫ってまいりました。よこそとプロムナードも日々新しい気持ちで地域の皆さんと共に歩んでおります。今月号も無事脱稿いたしましたことをご協力頂いた関係各位に厚く御礼申し上げます。(TAKEHITO OGOMA)

医療法人社団緑成会
横浜総合病院附属

あざみ野健診クリニック



年に一度の健康チェックを

私たちは定期的な健診をお受けいただくことで、皆様の健康管理、疾患予防のお役に立ちたいと願っております。ご受診を心よりお待ちしております。詳しくは下記HPをご覧ください。

- ・インターネット予約
- ・あざみ野駅より徒歩1分
- ・総合病院との連携

〒225-0011
横浜市青葉区あざみ野2-2-9
あざみ野第3ビル4F

☎ 045-522-6300
FAX:045-903-0777



医療法人社団緑成会
介護老人保健施設

横浜シルバープラザ



家庭に近い居住環境で、入居者の個性やニーズに沿い、他入居者との人間関係を築きながら日常生活を営めるユニットケアを導入した介護老人保健施設です。在宅復帰や在宅療養支援等の指標が特に高い施設のみが認定される「超強化型老健施設」に区内で唯一選ばれ、全国はもとより海外からも多くの福祉関係者が視察に訪れています。

ご入居のご相談
お問い合わせは
こちらまで

〒225-0025
横浜市青葉区鉄町
2075-5

☎ 045-972-7001
FAX:045-972-7741



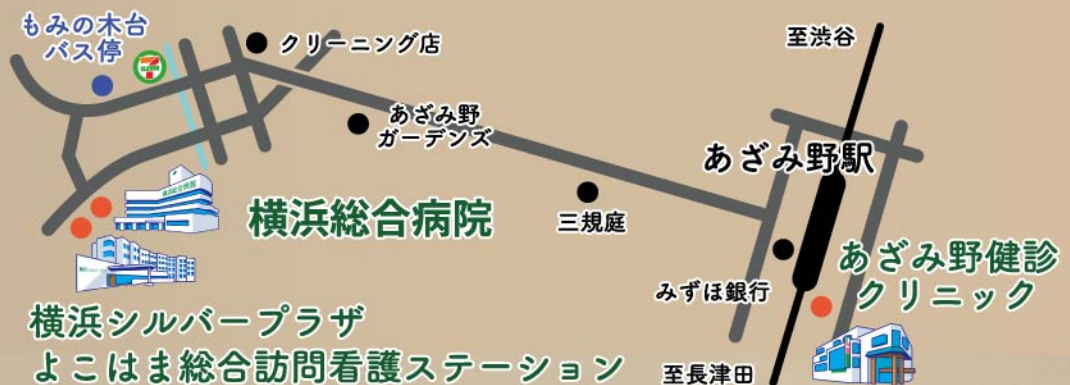
路線バス

●小田急線●

「新百合ヶ丘駅」から
「新23系統あざみ野駅」行
「もみの木台」下車徒歩7分

●東急田園都市線●

「あざみ野駅」から
「あ27系統すすき野団地」行
「もみの木台」下車徒歩7分



医療法人社団
緑成会

よこはま総合訪問看護ステーション

サービスの内容

- ・健康状態の観察と看護
- ・リハビリテーション
- ・認知症や精神障害の方の看護
- ・服薬管理 ・終末期ケア
- ・医師の指示に基づく医療処置
- ・主治医、サービス事業者との連携、調整



主治医が訪問看護を必要と認められた方なら、どなたでもご利用できます。

〒225-0025
横浜市青葉区鉄町2075-5
横浜シルバープラザ内

ご利用のご相談
お問い合わせはこちらまで

☎ 045-979-2341

医療法人社団緑成会

横浜総合病院

診療時間

午前

受付 8:00~11:30
診察 9:00~12:00

午後

受付 1:30~4:00
診察 2:00~5:00

循環バス

あざみ野駅、青葉台駅、鶴川駅、奈良北団地、こどもの国駅、麻生、すすき野方面より当院直通バスを運行しております。詳しくは右記HPをご覧ください。



☎ 045-902-0001
FAX:045-903-3098

〒225-0025
横浜市青葉区鉄町2201-5

プロムナード VOL.394

〒225-0025 横浜市青葉区鉄町2201-5

TEL 045-902-0001

発行日: 2026年2月1日

制作・編集: 医療法人社団 緑成会 横浜総合病院
総務課『プロムナード』編集室

発行人: 岩淵 聡



よこそう

